

バングラデシュ農村における飲料水の「重要性」：住民生活におけるプライオリティとは

立命館大学大学院 国際関係研究科 博士課程後期課程（4年）

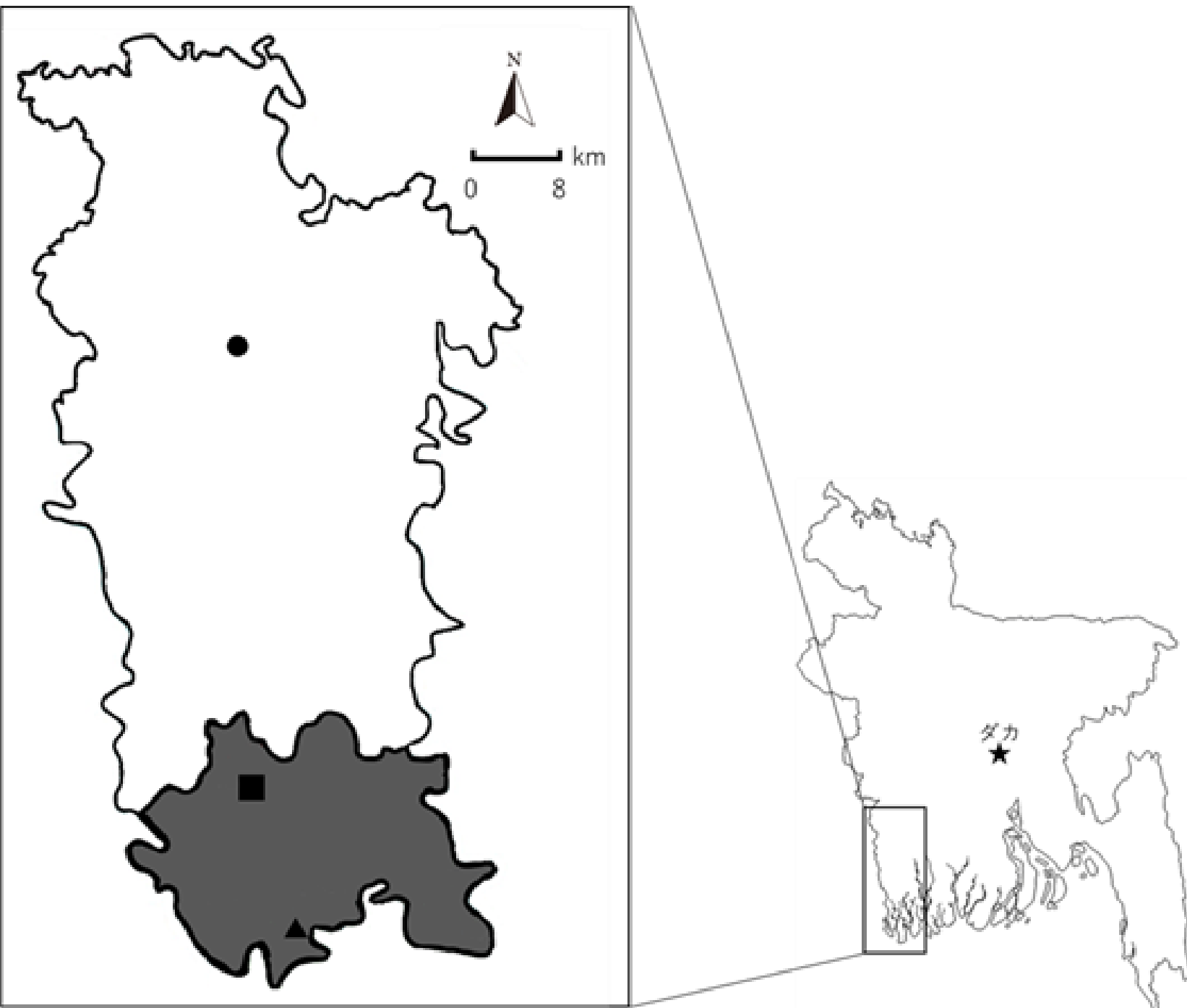
山田翔太

研究背景：・バングラデシュ沿岸部農村の飲料水問題（塩害、バクテリアなどによる表流水汚染）
・雨水貯水タンクの販売・配布活動とその所有世帯の少なさ

研究目的：1. 村民が雨水貯水タンクを入手しない理由、2. 雨水貯水タンクが普及するための要因の解明

研究方法

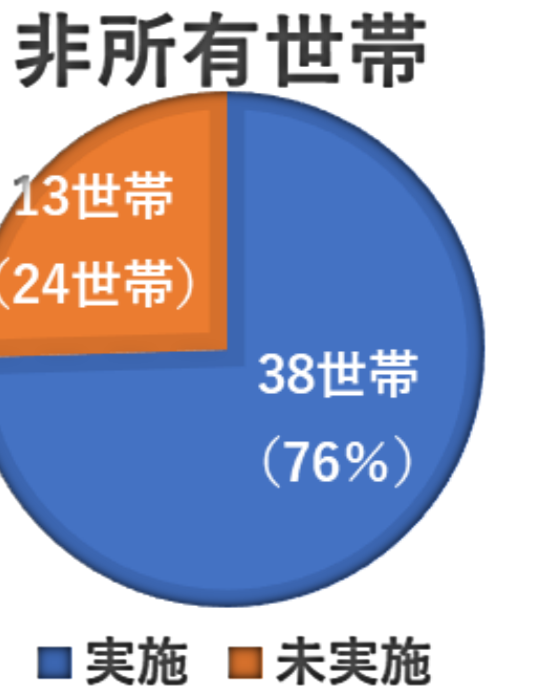
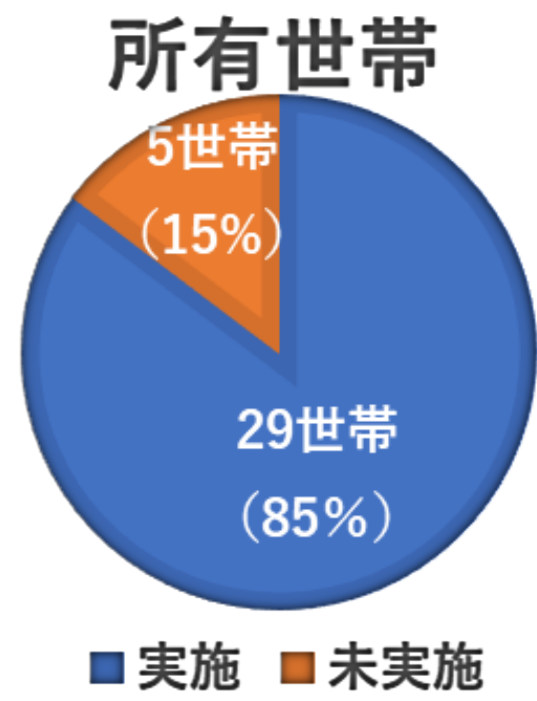
調査地	・ サツキラ県、シャムナゴール郡、ムンシゴンジ・ユニオンのJ村に位置するP集落
世帯数	・ 239
調査期間	・ 2019年4月1日～5月6日
使用言語	・ 英語ーベンガル語通訳
調査対象世帯	1. 雨水貯水タンクを所有していた全世帯（34世帯＝所有世帯） 2. ランダム抽出した雨水貯水タンクを所有していなかった世帯（51世帯＝非所有世帯）
質問内容	1. 年収 2. 雨水貯水タンクの所有・非所有の理由 3. 入手ルート 4. 入手価格
調査地の適切性	・ 塩害の発生 ・ 援助機関や市場を通じた雨水貯水タンクの販売・配布



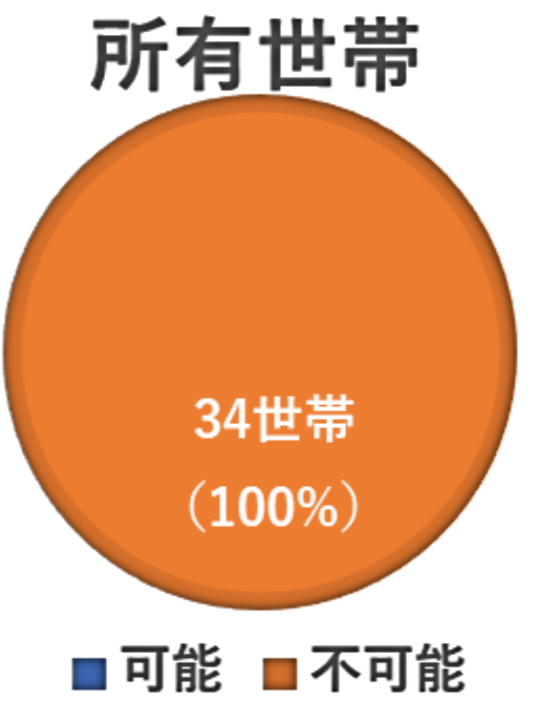
（注1）塗りつぶし部分がシャムナゴール郡を示している。また、●はサツキラ県の県庁所在地、■はシャムナゴール郡の郡庁所在地、▲は調査地であるJ村の位置である。
（出典）LGED（n.d.）を基に発表者作成。

結果と考察

雨水貯水の実施状況



年間を通じた飲料水の確保の可能性



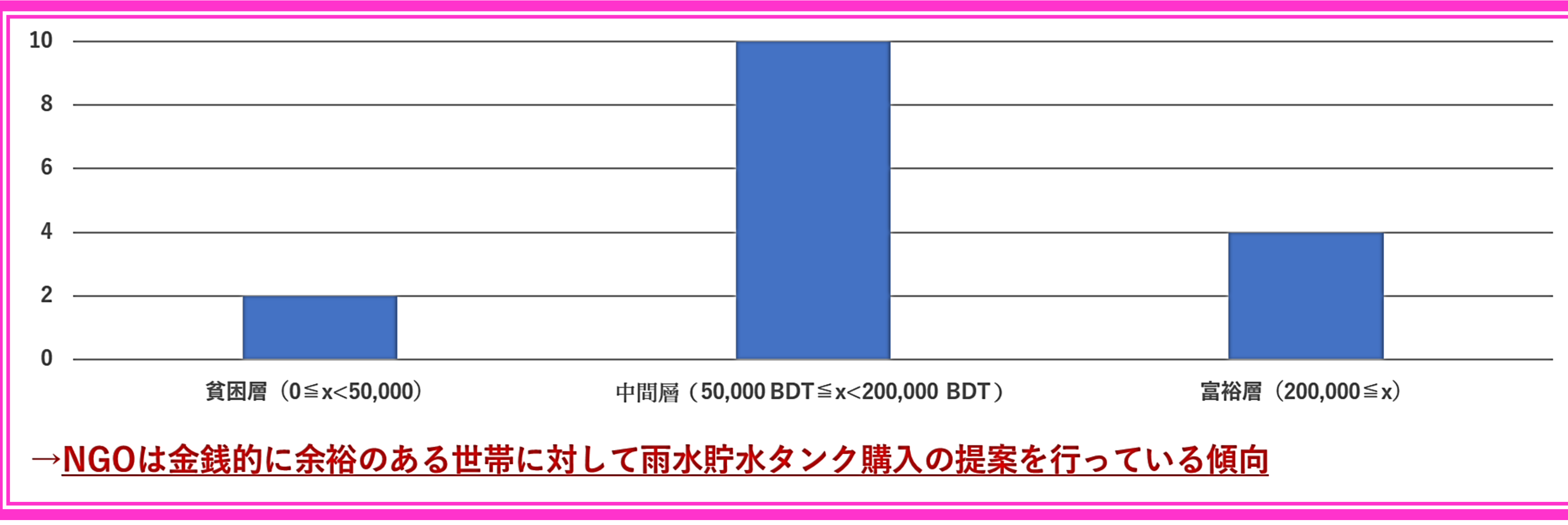
雨水貯水タンク購入後の年間を通じた飲料水の確保の可能性



調査した集落における雨水貯水タンクの入手ルート					
	NGO	市場	親戚・友人	自作	合計
タンク数 (世帯数)	19 (18)	11 (11)	5 (5)	3 (2)	38 (36)

（注）調査した集落で雨水貯水タンクを所有していたのは34世帯であったが、1世帯が市場、親戚・友人、自作より入手していたため、表中ではこの世帯が重複して計算され36世帯となっている。

雨水貯水タンクの所有・非所有と年収に関するt検定の結果					
	世帯数	平均の年収 (BDT)	t値	自由度	p値
所有世帯	34	201,888	3.96	83	0.0001*
非所有世帯	51	64,626			
p<0.05					
→金銭的に余裕のある世帯が雨水貯水タンクを所有する傾向					



結論

1.村民が雨水貯水タンクを入手しない理由

- 村民が援助依存により、雨水貯水タンクを入手し飲料水を通年で確保するという点で受動的な姿勢を示すため
- NGOが事業化することにより、経済的に貧困であり雨水貯水タンクを購入することができない貧困層がその活動の対象となっていない可能性があるため

2.雨水貯水タンクが普及するための要因

- 援助機関が村民が飲料水の年間を通じた確保において受動的な姿勢を取ることを理解し、このような姿勢を前提としたうえで能動的な姿勢へと導くような支援を行う必要性
- 貧困層が雨水貯水タンクに関する開発事業の対象から排除されないように、雨水貯水タンクを無償リースし購入の機会を提供したり、最貧困層に対しては援助として無償で提供することの必要性